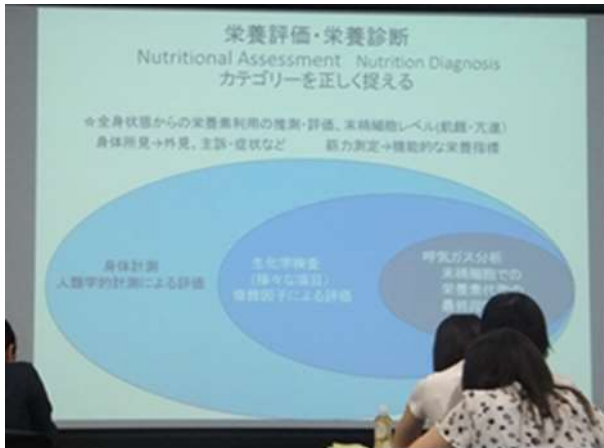


栄養管理のリスクマネジメント

講師 尚絅学院大学 片山 一男氏

平成28年8月28日 仙台市宮城野区榴ヶ岡のアゼリアヒルズ17F アゼリアホールにて今年度第2回目の生涯教育研修会が開催されました。

今回は尚絅学院大学 片山一男先生より栄養管理のリスクマネジメントについて講義をしていただきました。



事故防止のマニュアルをフローシートにすることで、誰にでも正しい判断が出来るようにすることが重要であり、これは栄養アセスメント同様であると考えます。栄養アセスメントは1つの指標のみで判断するのではなく、身体計測や生化学検査、呼吸ガス分析など複数の指標で評価することが必要です。また、中等度ケア、重度ケアの場合の栄養ケアを行う場合は分類し、検査結果をみながら評価を行いましょう。臨床栄養管理は水、電解質の状況把握より始まるといわれています。健康を保つためには、臨床栄養管理の基礎的理解が必要となってきます。

(文責 重巢 綾香)

ヒューマンエラーは誰にでも起こりうるものであり、マニュアルは行動に着目した対策などを考えて作成することが重要です。リスクマネジメントとして、アクシデントが起きないようなマニュアルと危機が発生してからの対策マニュアル作りも必要になります。そのためには、ヒヤリハット事例などを、職員で共有して事例分析をすることで事故を未然に防ぐ有効な手段となります。職員と話し合い、考え、対策を報告し情報の共有を行うことが重要となります。

給食管理のリスクマネジメント

講師 尚絅学院大学 片山 一男氏

給食管理のリスクマネジメントについて
尚絅学院大学 片山一男先生より講義をして
いただきました。給食管理についての研修会は
少ないため、皆さん熱心に受講されておりました。



PL法は製造物責任法であり、製造者や製品
以外にも食事を提供する側にも関わる重要な
法律です。給食管理のリスクマネジメントとし
て、細菌学や食品衛生学は必要不可欠ですが、
食事を提供する組織の中で人間の行動に関し
て目を注ぐことが重要となってきます。

また、調理機会などが新しく変わればマニ
ュアルは変わります。常にマニュアルは整理し、
余分なものは廃棄することが大切です。
ヒューマンエラーは誰にでも起こりうるもの

であり、マニュアルは行動に着目した対策など
を考えて作成することが重要です。

新人教育の際は、まぜこのマニュアルが出来
きた経緯などをイメージできる教えることが重
要です。また、失敗・成功に関わらず事例体験
の話をする事でイメージが付きやすく、起き
る結果、影響がどの程度あるかも含めて指導し
ていくことが大切です。

非常時のマニュアルは緊急性を想定して作り
こむことが非常に重要です。復旧の見通しにつ
いて、食事の分配はどうするか、近隣住民の受
け入れ態勢など考えられることを皆で意見を出
し合い、各施設にあった実現可能な内容のマ
ニュアル作成を行う必要があります。

実際に先生が病院に勤めていた時の事例な
どのお話もあり、具体的な対策についても聞くこ
とが出来、非常に充実した内容の講義となっ
ておりました。

(文責 重巢 綾香)

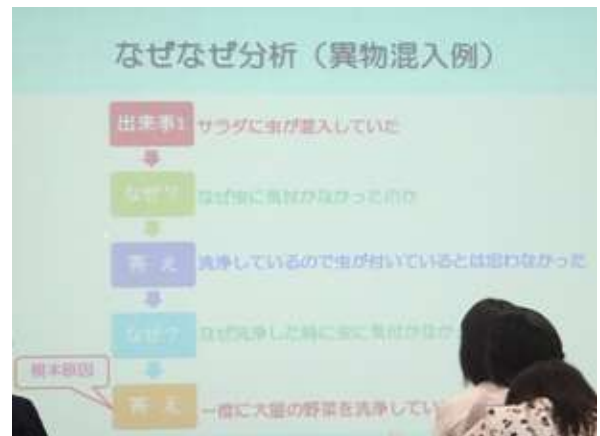
栄養・給食管理のリスクマネジメント

講師 尚絅学院大学 片山 一男氏

栄養・給食管理のリスクマネジメントについて尚絅学院大学 片山一男先生より演習を行っていただきました。演習ということで7グループに分かれ、グループワーク形式で行いました。



まず、栄養管理のリスクマネジメントとして体重が短期間に減少した2症例について、栄養士の観点より患者様へどのように説明するかという検討会を行いました。体重が短期間に減少する理由として、水分バランスが崩れていることに着目する必要がある、人間の体はナトリウム濃度を一定に保つようにできています。患者様に確認することとして、食事量は減少していないか？減少している理由は？入院であるために、自宅での味付けと比べてどうか？嗜好が影響し十分に食事量がとれていないのではないかの？など私たち栄養士は相手より十分な聞き取りを行い、結果として答えを導くよう臨床栄養の知識を十分に学ぶ必要があると実感する内容でした。



給食管理のリスクマネジメントについての演習は災害時の自施設の食事提供マニュアルを作成する内容でした。グループで情報交換をしながら、それぞれ自施設に合うようなマニュアルを検討しました。また、フローシートを作成したことで不足している物品などが具体的に見えることや、実際に東日本大震災での津波を経験していた施設より、当時の話を聞くことが出来やはり非常に時誰でも簡単に、判断できるようなマニュアルの作成が重要であると実感した演習となりました。片山先生、1日にわたり、具体的で実りある講義と演習をありがとうございました。

(文責 重巢 綾香)